

教育センターだより

第52号 令和5年1月25日発行

日野市立教育センター 〒191-0042 東京都日野市程久保 550 番地 電話 042-592-0505 Fax 042-592-1148 午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分 休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始	わかば教室 〒191-0042 東京都日野市程久保 550 番地 電話 042-592-0863 Fax 042-592-1148 午前 9 時から午後 4 時 休業日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始
---	--

教育センターだより第52号の発刊にあたって

日野市立教育センター所長 長 崎 将 幸

12月1日付けで正留前教育センター所長から所長を引き継ぎました教育部参事の長崎将幸です。引き続き教育センターが学校現場を支えるセンターであるよう事業を推進してまいります。

令和4年度も3学期になり、各校とも研究のまとめに入っているのではないかと思います。しかしながら、未だ新型コロナの収束は見えない状態です。どんな状況であっても、子供たちの未来を見据え、やれることはきちんとやることが我々の責務です。不易と流行の視点を持ち、柔軟でしなやかに、そしてどんなに時代が変わろうとも身に付けるべきものを大切にする教育を目指したいものです。第3次日野市学校教育基本構想では、我々教員に、一律一斉の指導から脱却し、一人一人を捉えたその子に合った指導の実現が求められています。子供たちが自分に合った多様な学びと学び方を身に付けることは未来に向けて必要な資質・能力です。出来ることを一歩でも進めましょう。

教育センターにおいても、コロナ禍で計画通りに進めないものもありましたが、「現場とつながり、授業力の向上を支える、現場に役立つ教育センター」の目標に向けて、研究授業や、指導方法の工夫改善につながる研修などの支援に努めてまいりました。教育センターだより第52号は、その状況報告です。今年度のまとめに向けて、現場とともに、所員一同力を合わせて、事業を推進していきますので、よろしくお願いいたします。

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」と「郷土教育推進の研究」に取り組んでいます。

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

理科教育推進研究委員会では、日々の授業を「日野っ子が主体となる理科授業」とするための研究や教材化に今年度も取り組んでいます。今号では、「生命尊重の心と観察力、分析力、考察力の育成」「体験的な理科学習の推進」「体験を通して、科学的な見方・考え方を育むためのプレゼン資料等の提供」「第4学年理科『月の位置の変化』の指導細案の作成と指導の工夫」「体験を通して、より自然に親しむための教材の作成」の取組について紹介します。

（1）「生命尊重の心と観察力、分析力、考察力の育成」のために

鳥骨鶏の観察記録「飼育動物から学ぶ 鳥骨鶏の観察」を12月15日時点で、122回まで作成し、各学校等に提供しました。具体的な観察の内容や観察の視点として、鳥骨鶏1羽1羽の特徴や様子、習性等、観察を通しての気づきや考察を様々な視点から発信していくことで、観察を続けることで様々なことが分かってくることを伝えることができました。このことが各学校、各学級で、一人一人の「いのち」を大切にしながら、子供たちを多面的に理解することの大切さやその意義について考えてもらえるように、観察、分析、考察を大切に、発信しました。



土の中の餌を探して、食べているメス3羽

（2）「体験的な理科学習の推進」のために

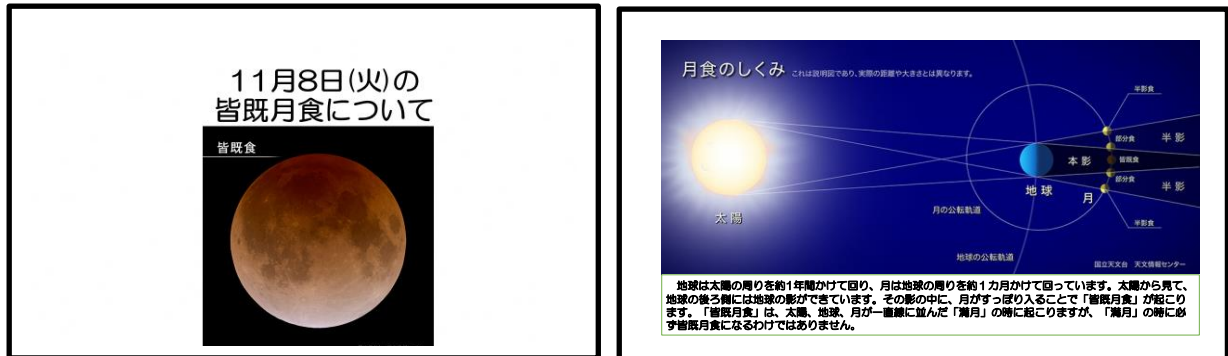
小学校第4学年理科「星や月」の単元では、「児童自ら進んで学習に取り組めるよう、より学習内容の深い理解を得るために活用できるよう、公開天文台やプラネタリウムの紹介、夜間観測会等での『体験的な学習』」を推進するよう促されています。今回、『体験的な学習』を推進していくために、日野市内の小学校でPTA主催の「天体観望会」の開催をコーディネートしました。この開催にあたっては、星空に詳しい講師、天文同好会、様々な場所で天体観望会を開催してきた団体のご協力をいただきました。

年3回の開催計画でしたが、今回は当日曇天、雨天等になってしまい、「星空のお話」と「疑似望遠鏡体験」を行うことになりました。参加者は、楽しい「星空のお話」を大変興味をもって聞くとともに、様々な望遠鏡を実際に覗く体験をして、その見え方を味わうことができました。

（3）「体験を通して、科学的な見方・考え方を育むためのプレゼン等の資料の提供」について

◎学校や学級ですぐ活用できる、天文分野の教育用プレゼンテーションの作成
様々な天文現象や宇宙についての情報を全校朝会や各学級で、分かりやすく子供たちに紹介

し、子供たちが実際の星空を観望する際の一助になるように、以下のようなプレゼンテーションを作成し、市内の小学校等に発信しました。



11月8日の皆既月食についてのプレゼンテーションの一部

上記の他にも、「自分の星座づくりにチャレンジ」「太陽系の惑星がもつ衛星の数の移り変わり」「私たちは、宇宙のどこにいるのだろうか」「火星の最接近」等のプレゼンテーションを作成し、日野市内の小学校等に提供し、活用してもらいました。

◎「星や星座に関する話」の発信

読み物として、以下のような題名の資料を作成し、市内の小学校等に提供しました。このような話を読んで、星空に興味・関心を抱き、実際の星空観察に結び付くように工夫しました。

「星の話」「月の話」「星座の話」「満月の模様の話」「七夕の話」「流星群の話」「天の北極の動きの話」「星座早見を使って、日の出、日の入りの時刻が分かる話」「地球の温暖化についての話」「『勇気一つをともにして』の歌とギリシア神話の話」「皆既月食観察記」「火星の話」「火星に生命は存在するか」等です。

(4) 「小学校第4学年理科『月の位置の変化』の学習指導細案の作成と指導の工夫」について

子供たちが「主体的、対話的な学習」をしながら、興味・関心をもち、「思考力、判断力、表現力」を活用しながら、学習を進めていけるようにするための学習指導案を作成しました。

さらに、天文指導をより充実させるために、以下の6点の工夫を提案しました。①「月の学習に興味・関心をもたせるための導入の工夫」②「太陽、地球、月の空間概念を理解させるための指導の工夫」③「児童の興味・関心に応じた調べ学習の工夫」④「観察するときに、見通しをもって観察し、日によって、月の形や見える月の位置が変化していくことを分かりやすく理解させるための指導の工夫」⑤「月や星に親しみ、想像力を働かせながら、豊かな感受性を育成していくための指導の工夫」⑥「専門家の指導・助言を得て、活用する工夫」です。

(5) 「体験を通して、より自然に親しむための教材の作成」について

◎18種類の「秋の鳴く虫」の鳴き声と名前等の紹介文を録音したカセットテープの作成

録音した「秋の鳴く虫」は、以下の18種類です。

- ①「エンマコオロギ」②「ツツレサセコオロギ」③「ミツカドコオロギ」④「ハラオカメコオロギ」⑤「フタホシコオロギ」⑥「スズムシ」⑦「カンタン」⑧「マツムシ」⑨「クサヒバリ」⑩「アオマツムシ」⑪「カネタタキ」⑫「シバズ」⑬「マダラスズ」⑭「キリギリス」⑮「ウ

マオイ」⑯「クツワムシ」⑰「セスジツユムシ」⑱「ササキリ」の計18種類です。

この録音した鳴く虫の鳴き声は、市内小中学校で聴いてもらえるように、発信をしました。

◎身近に見られる生き物の紹介と発信

少しでも、自然に親しむきっかけになればと考え、以下のような内容の発信をしてきました。

「メダカから学ぶこと」「セミの一生」「虫が鳴くことについて」「インコの観察から学ぶこと」「秋の鳴く虫」「自然から学ぶ チョウとコオロギ」です。

2 郷土教育推進の研究(郷土教育推進研究委員会)

ふるさと教育係

(1) 郷土教育推進研究委員会

① 研究主題

「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」と定め、第3次日野市学校教育基本構想が示す「疑問や驚きから生まれる問いを大切に、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどり着く」学習過程や、「地域で自分を感じ、自分を育て、自分の生き方をつかみ取っていく」授業の実現を目指しました。

② 研究組織と研究方法



委員会は、幼稚園教諭1名、小学校教諭17名、ふるさと文化財課学芸員2名、多摩平図書館司書1名、中央公民館職員1名で構成しました。全体をA B C Dの4グループに分け、そこに顧問が1名ずつ加わりました。グループリーダーの「世話人」を中心に研究テーマを設け、グループ研究テーマに基づき各個人が実践研究に取り組みました。A B Cグループは研究授業を1回実施し、Dグループは事例集のデータベース化に取り組みました。

友だちと考えを交流(研究授業)

③ 各グループの研究

【Aグループ】研究テーマ：郷土の歴史や自然の素晴らしさを発見し課題を見付け追究できる児童の育成

研究授業：10月25日(火) 東光寺小学校 4年 社会 「郷土の発展に尽くす」

○東光寺地域の良いところを班ごとに付箋を使って話し合う学習活動を行いました。児童の興味関心が高く学習を基に活発に話し合われたことが良い点となりました。

○地域を支えている人に着目させて課題作りの工夫をさらに進めていく点が課題となりました。

【Bグループ】研究テーマ：魅力を知り、関わりをもち発信するひのっ子を目指して

研究授業：10月25日(火) 潤徳小学校 5年 道徳科 「国や郷土を愛する態度」

○水の郷日野市の用水を守る地域の人々の取り組みと決まりへの考えを掘り下げたことが良い点となりました。

○地元湧水画像を活用した資料も提示し郷土への愛着を高める工夫が課題となりました。

【Cグループ】研究テーマ：郷土をもっと知ろうとする幼児、児童の育成

研究授業：11月29日(火) 日野第六小学校 5年 総合的な学習の時間 「身近な食品ロスを考えよう」

○一学期の食品ロスの学習と外部講師の話を基に、食品ロスの解決策を自分に引き付けて考え、班で話し合い発表する学習活動を行いました。主体的に解決策を考え対話的に活発に話し合う未来志向の発言が多く出たことが良い点となりました。

○食品ロスの解決策だけでなく地産地消の内容や作り手の思いや願いに触れる工夫が課題となりました。

【Dグループ】研究テーマ：1～16指導事例集の分類化 各教科で活用できるように

○郷土日野「指導事例集」の事例集のデータからリンクを貼ってそれぞれのページ(項目)にいけるように作業を進めていました。

○リンク完成後に個別の項目ごとに検索できるようにまとめたファイルを作成することが課題となりました。

(2) 夏季研修会 ～東光寺地域の日野用水フィールドワーク～

7月27日(水)に実施しました。午前は東光寺地域の日野用水(上堰・下堰)、水車堀公園、成就院、安産薬師、日野宮神社、よそう森公園を巡るフィールドワークを行いました。「用水について初めてであったが用水の利用、歴史を知る良い機会となった」「日野になぜ用水路が多いのか分かった」「学びの面白さ奥深さを味わうことができた」など好評でした。午後は、小杉顧問から、「日野用水」について



日野用水(フィールドワーク)

地図を基に日野の歴史・文化・産業について学ぶ演習と講義とともに地域教材の教材化の視点の講義をいただきました。また、主体的な学びに向かうテーマ作りについて高橋郷土教育コーディネーターが講義をしました。日野用水を通して教材研究と教材化の視点を実際に学べたので用水を郷土教育教材として実際に取り組みたいという意欲が高まりました。

(3) わかば教室・郷土資料館との連携 ～平山陸稲作り～



資料館の唐箕を学芸員と共に

平山陸稲の苗作りから始まり、田植え、稲刈り、はざかけ脱穀・精米、試食までをわかば教室の職員、子供たちと共に行いました。脱穀・精米では郷土資料館の収蔵農具を実際に使用し、使い方については資料館の学芸員2名から説明を受けました。鳥よけの工夫、水やり、肥料と工夫しながら行いました。1粒の種籾から沢山の米が収穫できた感動は、林丈太郎が感じた気持ちにつながったかもしれません。

Ⅱ 研修部

教職員研修係

研修部では、日野市教育委員会学校課が計画した研修事業を支援する業務を行っています。

1 若手教員育成研修(1、2、3年次)

(1) 1年次教員の授業観察における指導

今年度、1回目の授業観察は順調に進み、2回目は感染症予防対策を取りながら、ほぼ予定通りに実施することができました。1年次教員における授業観察の主な観点は、児童・生徒と良好なコミュニケーションが取れているか、説明は児童・生徒の理解度を把握しながら行っているか、発問のタイミングが適切で、児童・生徒の考えや意見を引き出せているか、板書では計画性があり学習の流れを示しているか、ICT機器の適切で効果的な活用が見られるか、などです。担当所員は、良かった点や課題を示し、次の授業に向けた改善策を話し合いながら指導に当たっています。2回目の授業観察では、1回目の時よりも落ち着きや安定感が増し、授業の流れにもゆとりを感じるようになりました。3回目の授業観察は12月から1月にかけて実施します。



「1年次の若手教員」

(2) 2、3年次教員の授業観察における指導

2年次教員における授業観察の主な観点は、授業のねらいが明確で流れにもメリハリがあり、山場を明確にした授業展開になっているかなどで、具体的な実践例を示し指導に努めています。また、興味・関心を高める教材開発やICT機器を効果的に活用するための助言も行っています。



「2年次の若手教員」

3年次教員では、問題解決型授業への取り組みが見られるか、コミュニケーション能力を高め表現力を育成しようとしているか、児童・生徒の興味・関心を引き出す教材教具の開発をしているかなどを主な観点として指導しています。また、外部との連携や学校の組織的な動きなどについても助言を行っています。

2年次および3年次若手教員の着実な成長を目の当たりにするとき、本人の日々の努力はもちろん、多くの先輩教員による地道で丁寧な指導があったことを強く感じています。

2 若手教員育成研修(2、3年次の校外における研修)

2年次は3回、3年次は2回、校外において研修(教育センター等における研修)が行われます。

右の写真は2年次の第1回目の様子です。主な研修内容は「児童・生徒の主体的な学習を促す授業づくり」と「学級経営についての理解を深める」ことです。



「2年次研修の様子」

右下の写真は3年次の1回目の様子で、「外部機関との連携」と「保護者対応」について、それぞれの担当者や現場の先生からの講話がありました。講話の途中にはロールプレイによる演習も行われました。

センター所員は上記研修会をはじめ、夏季休業中に開催された課題別研修会や教育センター講堂などで行われる研修会の受付、会場設営等の支援業務を行いました。



「3年次研修、ロールプレイの様子」

Ⅲ 相談部 「わかば教室」

相談部「わかば教室」では、様々な要因により、長期間の欠席状況にある児童・生徒が、安定した心理状態で過ごせる居場所として社会性や自立心の育成を目指し、様々な学びや体験を行っています。

(1) 長期欠席や登校しぶりの原因・背景について

- | | | |
|-------------------|-------------------|---------|
| ①友達関係 | ②学習面の困難 | ③教員との関係 |
| ④入学・進級・転校時の不応 | ⑤大集団・集団行動への不応 | |
| ⑥部活動など学校生活にかかわること | ⑦心身の不調・生活習慣への不応など | |
| ⑧親子関係など家庭環境 | ⑨その他 社会的な状況など | |

※これらの複合的なケースが多く見られます。

(2) 「わかば教室」の主な取り組み内容

- ①相談活動（学校生活上の問題・不登校に関することなど）
- ②わかば教室に通室している児童・生徒への指導・支援
- ③学校・家庭・地域の関係機関との連携

(3) 教育支援について（小学生・中学生と一緒に活動する場合があります。）

学習面では、小集団での学習を進めながら、一人一人の習熟に応じた指導を行います。小学生は基礎基本的な学力を身に付けることを目的とし、中学生は個々の希望に応じた学習支援を行います。週時程の中に「わかばタイム」があり（ことば・スポーツ・音楽・栽培・図工・美術等の）学習を行っています。e ラーニング指導ではミライシードを利用した個別学習やプログラミング・タイピング等を自分で選んで学習をしています。また、「わかデミー」では自分でやりたいことを決めて実践する主体的な課題学習を行っています。

生活面では、SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）活動や行事への参加の中で集団の中でのより良い人間関係を学ぶための教育支援を行っています。

(4) 「わかば教室」で実施した行事・活動（2学期）

①美術鑑賞教室（8月）

貸し切りバスで東京富士美術館へ行きました。常設展示室（西洋絵画）と特別展示（ムーミン コミック展）を見学し、たくさんの美術作品を鑑賞することができました。



美術鑑賞教室

②社会科見学（10月）

「埋蔵文化財センター」へ、モノレールを使って見学に行きました。多摩丘陵で実際に発掘された縄文土器や住居を見学したあと、火起こし体験を行いました



社会科見学

③学習発表会（11月）

児童・生徒が授業やわかデミーで取り組んだ学習内容の作品展示や映像発表を行いました。当日は各自の創作活動で表現した作品を児童・

生徒が鑑賞することができました。

④スポーツ大会 （12月）

バドミントン・ディスクゴルフ・ドッチビーなどの種目で小中学生合同でチームに分かれ、協力し合いながら競い合う姿が見られ、スポーツを楽しむことができました。

【特別授業】

☆秋の散策授業

わかばタイム「ことば」の授業の中で、教育センターの周囲を散策しながら、秋の言葉を探し、俳句の創作をしました。

また「図工・美術」の授業でも、スケッチを行い水彩画を制作しました。

☆藍染体験

植物の「藍」を種から育て、藍染用の液体を作って綿のガーゼのハンカチを藍染しました。また布の上に直接「藍」の葉をのせて、石でたたき、「藍のたたき染め」の体験もできました。

☆平山陸稲の体験

自分たちで種もみから苗を育て、田植えをした陸稲を刈り取りました。郷土資料館より農耕具をお借りし、学芸員の方々から使い方の指導を受けて脱穀・粃摺・精米の体験を行いました。

☆秋の収穫祭

毎週木曜日の栽培の授業で育てた秋の野菜（さといも・じゃがいも・さつまいも・大根・白菜・キャベツ・かぶ・レタス）を収穫した後に調理実習を行い試食をしました。



学習発表会



藍染



平山陸稲



収穫祭

（5）保護者に対する相談・対応

保護者会（活動参観・全体会・個別相談）を通してわかば教室の活動についてお知らせしています。また個別相談やカウンセリングを通して、児童・生徒への対応について支援を行います。

（6）所属校(小学校・中学校)との連携

毎月の通室日数やわかば教室での生活の様子を記録した「通室状況報告書」を毎月各学校に送付し、相互の連絡を通して、情報の共有化を図っています。あわせて「わかば教室連絡会」（学校の管理職・教育相談担当教諭の来室により児童・生徒の情報交換を行う）を年に2回実施することで学校と連携を密にとり、児童・生徒の対応と指導に生かしています。

（7）「わかば教室」を紹介する機関について

教育委員会、学校（スクールカウンセラー含む）、発達・教育支援センター（エール）、子ども家庭支援センター、病院等公的機関などと連携していることから、児童・生徒の状況に応じて、わかば教室について紹介・説明されることがあります。